

東京社保協ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索

第46回東京社保学校を開催



〈須田会長〉

東京社保協は8月27日、第46回社保学校をけんせつプラザ東京で開催し134人が参加しました。

須田会長の開会あいさつを受け、第1講義は後藤道夫氏（都留文科大学名誉教授）が、「脆弱な日本のセーフティーネット、全世代での貧困の実態」と題して講演を行いました。後藤氏は、豊富な資料を駆使して、①日本の困窮規模が全世代に広がってきていること。②その背景には日本型雇用の解体・縮小と労働市場の底抜けがあり。③結果として無貯蓄世帯の急増があり、旧来型生活保障の大幅後退が要因であり、④社会保障の支え無しで賃金と貯蓄で暮らす生活様式が破たんしてきていると指摘しました。



〈後藤道夫氏〉

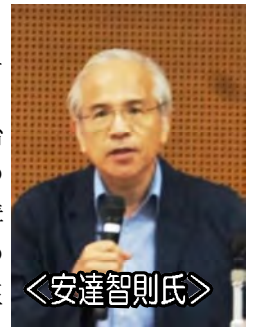


〈山崎光弘氏〉

第2講義は、山崎光弘氏（日本障害者センター事務局次長）が、「我が事・丸ごと地域共生社会の本質と課題」について講演し、政府・財界の本音は「我が事・丸ごと・他人事地域強制社会」だと指摘し、「我が事・丸ごと」の実現に向けた厚労省の動きや地域包括ケア強化法の問題点などに触れながら、「我が事・丸ごと」の本質を知り、心地の良い言葉に騙されないためにも地域レベルで学習会を行い、年齢や立場の違いを

超えて連携し、全ての人の命が保障される真の地域作りに取り組もうと訴えました。

第3講義は、安達智則氏（東京自治問題研究所主任研究員）が、「東京の地域医療はどうなるのか」と題して講演し、「東京都の地域医療構想」案の内容と問題点について講演。①地域医療構想が、13の2次医療圏を対象に検討されているが、地域包括ケアは中学校単位で検討されており、本当に地域医療・在宅ケアの整合性が取れないこと、②計画策定に際し、区市町村や議会の意見を聞く体制になっていないこと。などについて、東京都及び山梨県のパブコメと計画、練馬区と練馬区議会の取り組みなどについて触れながら講演しました。



〈安達智則氏〉



〈岩下明夫氏〉

第4講義は、岩下明夫氏（全日本民医連理事・歯科部部長）が、「第6回キューバ医療視察報告」を行いました。キューバでは、いつでも、どこでも、誰でも無料で医療・介護サービスが受けられることや地域の実情に根ざした地域医療・介護が実践されていることを、具体的な調査報告資料に基づいて報告されました。併せて、歯科医療では、キューバでは医師と歯科医師の区別はなく、医科と歯科が同じ施設で提供されているこなどが話されました。



〈寺川事務局長〉



〈丸山副会長〉

この4つの講義を受け、寺川事務局長が、秋から年末にかけての取り組みや行動日程などについての行動提起を行い、最後に丸山副会長が閉会あいさつを行い閉会しました。

なお、会場で肢体障害者全国交流集会（福岡）成功にむけての募金を訴えましたが、53,853円の募金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

各地域・団体の取り組み

歯科保険医協会



「保険でよい歯科医療を」東京連絡会は7月23日、歯科技工士を取り巻く諸問題に関する学習交流会を開催し、一般市民を含む歯科技工士や歯科医師など50人が参加しました。

学習会では、歯科技工士の雨宮真希人氏（兵庫県）と歯科医師の矢野正明氏（西東京社保協会長）が、それぞれの立場から問題点を報告。参加した歯科技工士や歯科医師が相次いで発言しました。

歯科技工士の困難な状況を報告

雨宮氏は複数のアンケート結果から、55歳前後で年収300万以下が5割以上、週の労働時間は約70時間、休日は平均1日以下とのデータを示し「これで将来にどれだけ希望がもてるのか」また、20歳代の離職率は75～80%で「個人努力では無く制度の問題」と歯科技工士の厳しい現状を訴え、技工士をめぐる問題の根本は「長時間労働・低賃金」「異常に高い離職率」「安価な市場技工価格」を認識しながら放置している厚労行政にこそあると指摘しました。

矢野氏は、小児う蝕の減少や高齢者への歯科治療の浸透により、国民の口腔状態が良くなり、健康の維持・増進に歯科が果たしてきた役割が大きいことを紹介。しかし、金属冠の料金は諸外国に比べあまりにも低いこと、患者の経済状況により受けられる歯科治療に差があることや、経営問題から歯科医院に勤務する技工士数も年々減少していることなどにもふれながら、「歯科技工士は技術的にも高度でやりがいのある仕事であるが、大変厳しい状況にある」と指摘しました。

患者・国民の視点で制度改善を

参加者からは、「歯科技工士に関する問題解決なしに歯科医療の改善はない」「この問題を改善する

には、歯科医療に携わるもの自ら立ち上がる必要がある」「歯科は自費収入がないと成り立たない仕組みとなっている。医療保険できちんとした歯科治療が受けられるようにするために制度改善は大事で、技工問題もその中の一つだ」「技工士自らが足を踏み出さないと改善していかない」など、発言が相次ぎました。

最後に、コーディネーターを務めた関多格司氏が「患者、国民のためという視点で歯科技工問題の改善が必要である。本日の活発で前向きな発言を受けて運動を進めましょう」とまとめました。

（歯科保険医協会より）

西多摩社保協

7月23日、西多摩社保協は第17回総会を開催し13団体から36人が参加しました。



塚田事務局長から、昨年度の活動の特徴として、月例幹事会の冒頭で毎回取り組んでいる社会保障に関する学習が、西多摩8自治体への要請にも反映され、各自治体の到達点とその成果に繋がっていることが報告されました。17年度の活動方針でも、引き続き学習を重視して、日の出町の高齢者医療費助成をはじめ、奥多摩町や檜原村の先進的な福祉施策などを身近な要求として取り上げ、各自治体に広げていくことを基調に活動方針を確認しました。

総会終了後、東京社保協寺川事務局長を講師に国保学習会を行い、地域から議員を含め40人が参加しました。

講演では、国保運営の責任主体を都道府県に移す狙いは、医療費抑制の強化と医療費水準に見合う保険料徴収の強化だと指摘。今後、保険料の引き上げや徴収強化・滞納処分の拡大は必至で世帯負担は更に拡大する。市町村に対して、都が策定する「運営方針」に縛られず、法定外繰入や負担軽減措置の強化を求めていくことが強調されました。

（事務局次長 宮田 和志）

大田社保協

大田社保協は7月25日、中央社保協の山口一秀事務局長を講師に国保問題学習会を開催し、各団体から27人が参加しました。



山口事務局長は、用意した様々な資料を駆使して国保の現時点での問題と運動の方向についてわかりやすく報告されました。そして、国保の財政運営が来年度から東京都に移り、都と区が連携して国保行政を行うようになり、保険料の更なる値上げも予想され、国保の都道府県単位化に向けた運動が緊急に求められると強調されました。

講演を受けての質疑では、「保険料の年金からの天引きはひどい」「国保に傷病手当を設けて」「国保運営協議会へ保険料引き下げを求めよう」などの声が出されました。

この交流を受けて、大田社保協としての行動提案を野口修二事務局長が行い、大田の「国保をよくする会」の立ち上げを全体で確認しました。

「なんでも相談会」を開催

大田社保協は7月19日に、街頭なんでも相談会を蒲田駅西口で開催し、8団体15人が参加しました。

相談では、健康相談、相続問題、納税・課税相談、労働相談や立ち退き問題など多様な相談が寄せられました。なお、今回は、9月20日に開催予定です。

小平社保協

(大田社保協ニュース等より)

小平社保協は7月28日、「国保の都道府県単位化」についての小平市の「出前講座」を開催し19人が参加しました。

小平市の説明は、①来年4月から、国と都からの交付金は小平市には来ないで全て東京都に入る、②東京都は、都全体の必要な医療給付費の額を算定して都への事業納付金を決める、③都は、この納付金に基づき、市町村ごとの標準保険料率を示し、市町村はこれを参考に市の保険料率を決めて被保険者に保険料を賦課し納入を求める、④都は、市町村に納めてもらう「事業納付金」（昔の年貢と同じ）は100%の完納を義務付ける。⑤国保の特別会計は、国と都からの交付金と保険料だけでは運営できないので、一般会計から繰り入れをして運営しているが、国はこの繰入金の廃止を求めているが、この判断は市町村の判断に委ねるとしている、⑥しかし、繰入金を廃止すれば1人当たり4万円の負担増になる。と説明した。

小平社保協は、市に今後も繰入金を継続・増額し、国保税の引き下げを求めました。

(社保協ニュースより)



「社会保障」誌の購読を

「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や社会保障制度がよくわかる！役に立つ！
学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読（年6回）
3000円（送料別）
1部500円（送料別）
- 申込みは東京社保協へ
TEL03-5395-3165
FAX03-3946-6823
*ホームページからも注文できます



8.14巢鴨宣伝行動



8月14日、定例の巢鴨駅前「4の日」宣伝行動をあいにくの雨模様の中で行いました。

この行動には、東京社保協から19人（内東京土建15人）、中央社保協から6人の合計25人が参加し、署名ハガキ付きティッシュ1700個配布し署名を

25筆集約しました。あわせて「医療・介護なんでも相談」を行い6件の相談が寄せられました。

相談では、「先日の突然の雹（ひょう）で屋根に穴が空き、その修理の区から助成金が出るので土建の方に見積もりしてほしい」「これから社会保障はどうなるのか、その仕組みが知りたい」、弁士の話しを聞いて「これ以上社会保障を悪くしないでほしい」と署名に応じるなど、6件の相談と要望が寄せられました。

今回は、9月14日（木）の10～11時で巢鴨駅前で行います。

「4の日」定例宣伝行動

- ・ 9月14日（木）10時～11時
巢鴨駅前
- ・ 10月14日（土）11時～13時
巢鴨地蔵通り入口

主催：東京社保協・中央社保協

東京高齢者のつどい

2017年9月22日（金）

◎分科会（10時～12時半）東京土建杉並支部ホール

◎全体会（14時～16時半）杉並公会堂

記念講演：日野秀逸（東北大名誉教授）

第28回東京高齢者のつどい実行委員会

無料

国保・医療なんでも電話相談会

～ 滞納・差押え110番 ～

2017年10月1日（日）午前10時～午後5時



0120-110-458

医師、看護師、弁護士、ケースワーカーなど
専門家が相談にお答えします

介護利用料高くて
サービス減らした

国保料や窓口負担の減免
除、減額など負担が軽減
ができる場合があります
お電話ください。無料相談に
ます。

年金が差押えされた
どうしたらいい？



正規社員になれない！
国保料高くて払えない



具合悪いけど
病院に行けない

国保料（税）が高くて困っている、
差押えもされそうだ、など相談はお気軽に



主催：「国保・医療なんでも相談会～滞納・差押え110番」実行委員会
自由法曹団東京支部、東京保険医協会、東京民医連、東京地評、
東京医労連、東京土建、東商連、都生連、東京自治労連、東京社保協

連絡先 東京社保協 TEL03(5395)3165 FAX03(3946)6823 東京社保協へ検索



スマホからでも
東京社保協に
検索